

Vol.18

2016 August

みんなの未来を守る健康診断

けんこうリンク

公益財団法人 茨城県総合健診協会 機関紙



Vol.18 CONTENTS

特集

がん検診を考える

～効果的な検診の実施について～

Topics

- ・ ISO認証機関表彰を受賞しました
- ・ 「ねば〜る君」と「うめねばちゃん」が当協会でがん検診を受診！
- ・ 海外から視察団が訪れました
- ・ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016茨城に参加しました！
- ・ つくばピンクリボンフェスティバル2016に参加しました！

Information

- ・ 専務理事就任挨拶
- ・ 複十字シール運動にご協力お願いします
- ・ 血清ピロリ菌抗体検査の結果判定値が変更となりました
- ・ 茨城よろこびの会「がん体験談スピーカー」募集
- ・ 9月は「がん征圧月間」及び「結核予防週間」です



けんこうリンク

公益財団法人 茨城県総合健診協会

がん検診を考える

～効果的な検診の実施について～

特集

昨年12月、茨城県において「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」が制定されました。

他の道府県にも同様の条例が制定されていますが、本県の条例は、その名称どおり、がん検診を推進することが重要なことと位置付けています。がん検診に言及していることは、医師の少ない本県（全国ワースト2位）にとって重要なことであり、本条例の施行を契機に、がん検診の受診率向上やがん教育が進むことが大いに期待されています。

今、注目を集める「がん検診」、これをテーマに今号から2回にわたり特集します。まず今号では、効果的ながん検診の推進について考えます。

「こつした現状を踏まえ、厚生労働省が対策推進協議会会長は、もつとがんの予防に本格的に力を入れる必要があるとし、がん対策の方向性を予防と検診に大きくかじを切る必要があることを国民に広く認識してもらいたい」と述べています。

しかし残念なことに、日本のがん検診受診率は、OECD（経済協力開発機構）加盟国34か国中最低水準にある中であって、本県の受診率は全国平均とほぼ変わらない状況になっています【図2】。

【図1】2016年がん罹患数予測

	男女計	
	全がん	
1	大腸	147,200
2	胃	133,900
3	肺	133,800
4	前立腺	92,600
5	乳房（女性）	90,000
6	肝臓	45,100
7	膵臓	40,000
8	悪性リンパ腫	31,200
9	子宮	30,200
10	腎・尿路（膀胱除く）	29,400

（国立がん研究センターの資料から一部抜粋して作成）

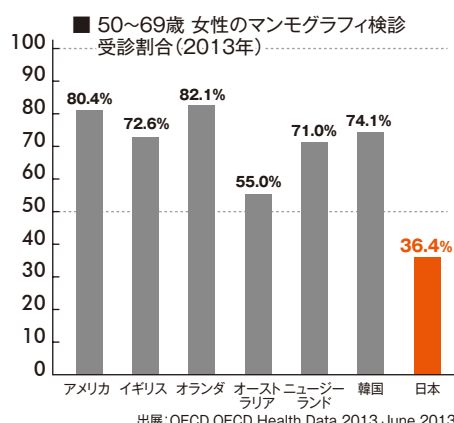
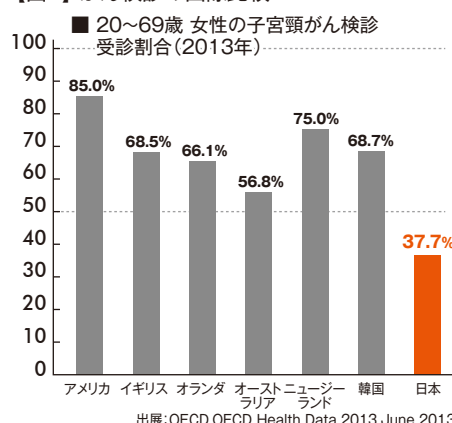
国立がん研究センターから2016年のがん罹患数予測が発表されました。発表によると、101万2000例の予測結果が算出されたことと、この「罹患数」とは「その期間の間に新しくがんと診断された」という意味です。つまり、2016年のうちに新しくがんにかかると予測される人数です【図1】。年次別に見ても、その数は上昇の途となっています。

がん患者、ついに100万人越え

では受診率とは？

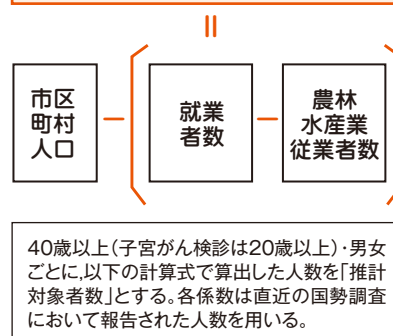
これまで受診率を計算するうえで分母となる「対象者数」については、各市町村がそれぞれ独自の考え方により設定していたため、複数の市町村のがん検診受診率を同一基準で比較及び評価することができませんでした。

【図2】がん検診の国際比較



【図3】厚生労働省が示す対象者算出式

推計対象者数



そこで、茨城県では、厚生労働省が平成21年3月に健康局総務課長通知で示す算出方法で計上するよう、昨年度、県内市町村に周知しました【図3】。

これにより今後は市町村間の比較が可能になったものの、ここでお問題なのが、職域で受診した方を集計する手法が確立されていないことにあります。市町村が行うがん検診の集計は最終的に厚生労働省に報告されていますが、職場で受けた方の把握は行っていないため、まだまだ受診率を正確に把握することは極めて困難な状況にあるわけです。

こつした事情から、代替案として厚生労働省が行う「国民生活基礎調査」によるがん検診受診率把握が挙げられています。本調査は、無作為抽出された世帯に対し、がん検診に係る項目を3年に1度調査を行い、市町村、職域個人において受診したがん検診を全て含んだ受診率となっています。

しかし、本調査における県内の回答者数は、肺・胃・大腸がんは1214人、乳がんは607人、子宮頸がんは888人で非常に回答数が少ないことや医療機関で外来受診した際に診療行為で行われた検査をがん検診と勘違いして回答している可能性も指摘されています。

検診の推奨年齢

現在、市町村が実施するがん検診は、県の指針に基づき40才以上の全住民（子宮頸がんは20才以上）を対象とし、上限年齢が定められています。

しかしながら、欧米諸国では効果のあるがん検診には徹底的に国策として取り組んでおり、最大限の効果を得るために推奨年齢を明確化しています。例えば、米国予防医学専門委員会では年齢に応じた推奨グレードを発表しています【図4】。国内においても、今後、根拠に基づいた対象年齢の上限を研究する必要があります。

【図4】がん検診の年齢別推奨グレード

部位	推奨グレード		
	50～75歳 推奨する	76～85歳 個人レベル で判断	86歳以上 推奨せず
大腸がん	50～75歳 推奨する	76～85歳 個人レベル で判断	86歳以上 推奨せず
子宮頸がん	21歳未満 推奨せず	21～65歳 推奨する	66歳以上 推奨せず
乳がん	49歳以下 個人レベル で判断	50～74歳 推奨する	75歳以上 効果不明

※米国予防医学専門委員会：米国医療研究・品質調査機構が運営する独立委員会であり、科学的根拠に基づくがん検診の推奨度を発表している。

こうした経緯を背景に厚生労働省は、諸外国との比較等も踏まえ、平成25年度より「がん対策推進基本計画」（平成24年6月閣議決定）に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳までとしています（子宮頸がんは20歳から69歳まで）。

また、受診率50%目標達成のため、重点的に受診勧奨すべき対象者を考慮するよう明記しています。がん対策の充実を重点的に取り組むべき主たる対象を、働く世代である壮年期に設定し、がん検診の目的である死亡率減少効果を壮年期に期待しています。

高齢者特有の問題点

茨城県が定めるがん検診の指針は、肺、胃、大腸、乳及び子宮頸部の5つのがん検診について規定しています。これらのがん検診は「がんでなくなる方を確実に減らす効果がある」と科学的に証明された検診です。しかしこれらの検診は、全ての年齢層に対して効果が証明されているわけではないとの見解を国立がん研究センター社会と健康研究センターでは示しています。

がん検診の利益よりも不利益が上回る若年者と高齢者には注意が必要です。特に高齢になると、がん検診を受けることによる利益と不利益の個人差が大きくなることが知られています。その方の健康状態や体力、体調には大きな個人差があるためです。

例えば、高齢になるとがんの進行は遅いため、発症前に寿命を全うできる場合があります。その一方で、不必要な精密検査や治療等により、後遺症や副作用など生活の質を損ねるような重い負担が発生する場合もあるため、高齢者への受診勧奨は慎重に行う必要があります。もちろん、人によつては、高齢であっても検診の利益が不利益を上回る方もたくさんいますので、一律に検診を促すよりも、個人の判断で必要だと思った検査だけを受けていただくことが適切です。

では、より具体的に検診時には高齢者にとどのような特有の問題があるのでしょうか。胃がん検診の場合を例に挙げましょう。

胃がん検診の場合

市町村が実施する胃がん検診はX線検査です。検査前にバリウムを飲んでもらいますが、特に高齢者には嚥下機能の低下により

知らず知らずのうちに気管支にバリウムが入り込む誤嚥（ごえん）がよく見られます。

検査時には、胃の粘膜にバリウムを付着させるため、撮影台の上で自身による回転や左右の反転など、ときには台を上下に動かして頭をさがさまにする場合もあります。このとき撮影台の手すりをしっかりと掴むことが困難な方は、撮影台からの落下や転倒の危険性があります。

また、検査終了後には、なるべく早くバリウムが排泄されるよう、下剤とともに普段より多くの水分を摂るようお願いしていますが、高齢者は、口渇中枢の低下により、水分を多く摂ることに抵抗を感じる方も多いため、バリウムがすぐ排泄されず、腹痛及び腹部膨張感などを訴える傾向にあります。このバリウムは、そのまま腸内に長時間残ると、固まって排泄しにくくなり、極まれに腸閉塞や消化管穿孔（破裂）を起すことがあると報告されています。個人差はありますが、特に腹筋力や腸のぜん動運動の低下により便秘症が増える70歳以上の方は、このようなりスクを考慮する必要があります。

科学的に効果のある 受診勧奨方法

以前からがん検診の受診率向上が叫ばれる中、受診勧奨方法といつと、市町村の広報誌による個人を特定しない方法が広く行われてきました。

米国CDC（米国疾病予防管理センター）では、科学的に効果が証明された受診率向上対策を公表しています【図5】。なかでも、最も効果的な取り組みが手紙による受診勧奨（プラス付加情報として）です。この付加情報とは、「がん検診のメリット」や「がんの重大性」が「やすさ」に関する情報を指して

いるようです。

欧米のがん検診では、対象者個人を特定し郵便や電話などによる個別受診勧奨再勧奨（コールリコール）が当たり前のように行われていますが、国内ではまだまだ低い実施率となっており、早急な対策が必要です。しかし、これらを実施するには予算やマンパワーを必要とし、限られた資源の中で効果的な運用を図るためには、やはり重点的な受診勧奨対象者を選定することが望まれます。自治体レベルにおいては、すでに独自の試みも行われており、大阪府では受診勧奨を行う対象者を検診項目毎に設けています。

【図5】受診率向上にもっとも効果的な手法

受診率向上に 用いられた方策	受診率の増加		
	乳がん検診 (マンモグラフィ)	子宮頸がん検診 (細胞診)	大腸がん検診 (便潜血検査)
コール・リコール 手紙による受診勧奨 (+付加情報)	○	○	○
スモールメディア (ビデオや印刷物)	○	○	○
費用以外の障害の除去 (アクセスの向上など)	○	×	○
1対1の教育 (電話や面接)	○	○	×
自己負担費用の軽減 (無料化など)	○	×	×
報奨 (少額の現金やクーポンのみ)	○	×	×
グループ教育	×	×	×
マスメディアのみ	×	×	×

出展：CDC community guide

次号に 続く



少子高齢化の急速な進展、労働力人口の減少に対応するため、「女性の社会進出」や「定年延長」など、企業をとり巻く就労環境が変化しています。そのような中、厚生労働省や茨城県でも働く世代のがん検診を推進しています。

そこで、次号では、「働く世代」に着目し、なぜ働く世代のがん検診が重要なのかを説明していきたいと思います。

ISO 認証機関 表彰を 受賞しました



この度、当協会は「ISO 認証機関表彰」を受賞しました。

この表彰は、10年以上の永きにわたり品質マネジメントシステムの維持・向上に努めている認証機関に贈られるものです。平成17年4月に県内の保健医療機関で初めてISO9001認証を取得して

から10年以上経過し、顧客満足の向上に向けたこれまでの取り組みが認められ、受賞となりました。

今後も、より良い健診サービスを提供できるよう、役職員一丸となって継続的改善に努めてまいります。

「ねば～る君」と 「うめねばちゃん」が当協会で がん検診を受診!



県非公認キャラクターの納豆の妖精「ねば～る君」とその友人の「うめねばちゃん」が、6月28日（火）、県民の方々にがん検診を広く呼びかけようと、当協会ががん検診を受診しました。

とても大きな身体なので、受診に際しては一抹の不安がよぎりましたが、何とか無事に検診は終了しました。当日の様子は、「いばキラTV」「ケーブルTV」「ねばねばTV」で放映中です。

ねば～る君・うめねばちゃん、検診おつかれさまでした。次回は、特定健診でお待ちしていますね。

海外から視察団が訪れました



6月1日（水）、病理専門医など5名の中国人医師が、自施設の病理診断や細胞診検査の運用に役立てようと、当協会の検査室を視察に訪れました。

細胞診検査では、当協会が世界に先駆け平成25年に導入した検体の前処理と塗抹標本の作製を全て自動で行う「液状検体処理装置」を特に熱心に見学し、様々な質問をされました。当協会の検査技術に感心しながら「自施設の運用を見直すよい機会となった」と満足した様子で帰国されました。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016茨城に参加しました!



5月21日(土)〜22日(日)の2日間、つくば市研究学園駅前公園にて「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016茨城」が開催されました。

このイベントは、がん患者やその家族を励ますチャリティ活動で「がん患者は24時間、がん向き合っている」という想いを共有しようと、24時間夜通しでウォーク

が行われ、1,500名を越える方々が参加しました。

当協会は、このイベントの趣旨にかねてより賛同しており、例年、協賛するとともに参加しています。今年も、役職員によるチーム「けんこうリンク」を結成し、当協会が事務局を務める「茨城よろこびの会(がん患者の会)」とともに32名にてメインイベントの24時間ウォークに参加しました。また、骨密度の無料測定やがん予防パネルなど展示ブースの出展を行い、来場者へ検診による早期発見・早期治療を強く呼びかけました。

これらの啓発イベントへの参加を通じて、がん征圧への想いがよりいっそう広がることを切に願っております。



乳がん検診の啓発運動「つくばピンクリボンフェスティバル2016」が、5月8日の母の日に、晴天の青空のもとつくば市内で開催されました。

当日は、700名を越える参加者が、より多くの市民に乳がんについて考えてもらおうと、市内中心部約5キロを練り歩き、早期発見・早期治療の大切さを呼びかけました。

当協会は、役職員21名が参加し、そろいのピンクのベレー帽をまとい、横断幕を掲げながら、沿道の方々へ乳がん検

つくばピンクリボン フェスティバル2016に 参加しました!

診の大切さを訴えました。

今後も引き続き乳がん検診を推進してまいります。



専務理事 就任挨拶

小野 嘉久

このたび根本専務理事の後任として平成28年6月1日付で専務理事に就任いたしました。就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

私は、これまで茨城県職員として、関係各位の協力を得ながら県勢発展のために全力を尽くしてまいりました。誰もが安心して健やかに暮らすことができる「住みよい いばらき」の実現には、県民一人ひとりが主体となり、いきいきと活動的であることが不可欠であると考えます。しかし、現在の日本は世界でも類をみなし超高齢社会を迎え、疾病構造の変化も影響し様々な健康問題を抱えています。

こうした状況の中、生活習慣や社会環境の改善が急務とされており、健康診断や保健指導といった健康管理を支援するサービスは、医療財政の健全化や経済発展の観点からも今後ますます重要な役割を担うものであります。

当協会は、長年にわたり予防医学活動を推進し、皆様からの信頼をいただいているところでありますが、決して現状に満足することなく、我々が社会から求められているものを常に認識して改善に取り組み、皆様にとって身近で最も必要とされる健康支援機関を目指し努力してまいり所存であります。

今後とも変わらぬご指導、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



略歴

昭和55年4月 茨城県入職
平成18年4月 商工労働部労働政策課長
平成20年4月 広報広聴課長
平成22年4月 生活環境部廃棄物対策課長
平成24年4月 生活環境部次長
平成25年4月 理事兼知事公室長兼国体推進監
平成27年4月 生活環境部長
平成28年6月 (公財)茨城県総合健診協会 専務理事

血清ピロリ菌 抗体検査の 結果判定値が 変更となりました

当協会では、胃がんとの関連が指摘されているヘリコバクター・ピロリ菌の有無を診断する「血清ピロリ菌抗体検査」の結果判定値を日本ヘリコバクター学会の提言に基づき以下のとおり変更しました。

■ 血清ピロリ菌抗体検査の結果判定値 ■

判定	改正後	改正前
陽性(+)	3.0U/ml 以上	10.0U/ml 以上
陰性(-)	3.0U/ml 未満	10.0U/ml 未満

複十字 シール運動に ご協力 お願いします

茨城県の結核の状況

結核で亡くなった人

47人/年

平成26年人口動態統計

新たに結核になった人

387人/年

2014年版 茨城の結核統計年報

複十字シール運動は、結核や肺がんなどの胸部に関する病気をなくして健康で明るい社会の実現のため、毎年全国各地で行われている募金活動です。
募金の使い道は、結核予防の広報や教育資料の作成、結核予防団体の活動、呼吸器疾患の調査研究及び途上国の結核対策に使われています。
今年も皆様の温かいご支援とご協力をお願いいたします。

<募金方法>

口座振り込みにて受付しております。ご協力いただける際には下記あてにご連絡ください。追って、振込手数料が不要の専用振込用紙と複十字シールをお送りいたします。

【連絡先】総務課

☎ 029-241-0011 (代)

※「複十字シール運動」とお伝えください。

【個人情報の取扱いについて】

当協会は、募金者個人情報を厳正に保護管理し、「募金振込用紙の送付」及び「募金に関する機関紙の送付」のみに使用させていただきます。また、一定金額以上ご協力いただいた方は、当紙面にてご紹介させていただきます。希望されない場合は、お手数ですがその旨を総務課へご連絡ください。



茨城よろこびの会 「がん体験談スピーカー」募集



当協会が事務局を務める「茨城よろこびの会」では、たぐいま「がん体験談スピーカー」を募集しています。

「がん体験談スピーカー」とは、検診の奨励や現在がん向き合っている人達の不安の払拭、さらには医療の発展に貢献することを目的として、広く社会に呼びかける人のことをいいます。皆様からの要請にお応えし出張講話を行っており、昨年度は、茨城県主催のイベントなど計13回の講話を行いました。

これまでの経験を生かし、今後も精力的に活動してまいりますので、興味のある方は、ぜひご応募ください。

応募資格

- がん体験者
または
- がん患者介護
体験者

■「スピーカーになりたい」「スピーカーをよびたい」といったお問い合わせは■

経営企画室 ☎ 029-241-0011 (代)

※「よろこびの会スピーカー」とお伝えください。

毎年9月の「がん征圧月間」では、全国の関係団体が「がん」となるとがん予防やがん検診の普及啓発に取り組んでいます。

日本対がん協会は、がん征圧月間を広く周知するために毎年ポスターを作成しており、今年度は知らない間にできて大きくなる「がん」を、野菜を内側から食い荒らす「青虫」に例えて表現し、大きくなる前に、がん検診による早期発見を訴えています。このポスターは、9月の月間に合わせて全国の自治体、保健所

9月は「がん征圧月間」 及び「結核予防週間」です

などに掲示されます。

また、厚生労働省は、9月24日から30日までを「結核予防週間」と定め、今なお日本に蔓延する結核の怖さと正しい知識を伝えるため、結核予防会を中心に全国各地で結核予防のための普及啓発を展開します。当協会は、今年も県、保健所などと連携し、県内各地で「結核予防街頭キャンペーン」を予定しています。

見えないところで
おおきく育つ
間に合ううちに、がん検診。

日本対がん協会 9月、がん征圧月間 全国大会 2016.9.9 京都市



けんこうリンク

公益財団法人 茨城県総合健診協会

〒310-8501 水戸市笠原町489-5

TEL 029-241-0011(代) FAX 029-241-0332

【全国組織】

(公財)結核予防会茨城県支部

(公財)日本対がん協会茨城県支部

(公財)予防医学事業中央会茨城県支部

【施設認定】

労働衛生サービス機能評価機構認定施設

国際品質保証規格ISO9001:2008認証取得

プライバシーマーク認証取得



□県西センター	〒308-0125	筑西市関本分中37-1	TEL 0296-20-3480	FAX 0296-20-3482
□県南センター	〒300-0025	土浦市手野町1-1	TEL 029-830-3355	FAX 029-828-0985
□茨城県立健康プラザ	〒310-0852	水戸市笠原町993-2	TEL 029-243-4171	FAX 029-243-9785

編集後記

今年の台風1号の発生は、観測史上2番目に遅いとのこと。これはラニーニャ現象の影響らしいのですが、この現象が発生した年は異常気象、特に夏は猛暑となる可能性が高いようです。

この台風1号、猛烈な強さに成長しましたが、この「猛烈な」は気象用語で雨・風などの強さを示す表現の最上位で、これ以上の表現は今のところありません。ですが、ここ最近、「猛烈な」の想

定を超える雨量や気温の記録が続出しており、更に上のランクの表現を設けるとの話もあるとかないとか。

「猛烈な」のインパクトはかなりのものですが、それを上回る表現とは何か。興味はありますが、天気予報や報道でお目にかかりたくはないですね。(N・K)



個人情報保護に関するお知らせ

当協会では、機関紙「けんこうリンク」の発行に関わるみなさまの個人情報を、同紙の送付以外には使用いたしません。次回以降、送付をご希望されない場合は、経営企画室までご連絡くださいますよう、お願いいたします。

「けんこうリンク」の各種情報は、

<http://www.ibasouken.org/>